

のイメージング・グレースの合唱のクリスチャンへの細心の配慮には唯々涙するばかりでした。

顧みますと昭和十八年（一九四三年）九月、大日本武徳会大阪府支部長野支所が結成され（写真）、私は三段に合格して、勇躍、出征しました。但し、懐中にはクリスチャンとして聖書を忘れませんでした。私は中学二年で（一九三七年一月）受洗して、「神は真実にいませば、我らの罪を赦し、凡ての不義と戦わせ、潔めたまわん」を座右の銘としてきました。

『しゅわれをあいす、しゅは つよければ われよわくとも おそれはあらじ、わがしゅイエスわれをあいす』とうたつて成長しました。従つて、青春時代は神道や現人神天皇あらひとがみの信者には攻撃されました。しかし「忍」の一字でした。

私は三月十九日が満九十六歳になり、「晩年こそ最高の好機」と信じて、「公」を忘れた日本人へ、「楠公（楠木正成と正行）をテーマに河内長野市などが日本遺産に申請している楠公復活運動に少しでも役立ちたいと念願しています。

私の幼名は楠木正勝で本籍千早の楠の本家で正成の孫の名をもらつて大きくなりました。

最後はクリスチャンとして全うしたく、その瞬間まで「武士もののふの心」を失わないようにしたいと願っています



昭和18年9月 河内長野武徳会 指導者一同
大日本武徳会大阪府支部河内長野支所結成以来剣道指導補として協力された方々が昇段試験に合格した記念写真
思い出の一枚